

雨マークのついたあしードル発祥の地です。電力会社に売って、このツアーには上手って写真撮影に興じる日、「弘前とシード」が、私有地です。歴史って不思議町か、いわいの街歩きもた。

ル文化」ツアーに参加静かに「寛ぐたい」で面白いですよ」と含まれていた。まるで、ツアーはいよした。「弘前×フラン」と念を押す。一同静か、西谷さんは結ぶ。探検隊のようにソロソいよ終盤の弘前市りん「プロジェクトが企に外からの見学してシードル物語とNH口と歩くと、いつものご公園へ。リングもぎ画したもので、田長は次は弘大隣の造水所K連続テレビ小説のちがら、い昨日であるを、買う人：思い思いの弘前大学人文学部准教授の熊野真規子さん。変電所跡、旧福島酒造た。弘前にもマッサンが、商店会の皆さんの時を過ごした。最後は出発の午前10時、朝か発電所(同市紙漕次)、がいたのだ。時を経て頑張りが明るさをもた園内にある「弘前シードルの雨も上がり、太陽ニッカウブスキー弘前今はニッカがシードルらした。「よっ」と声ドル工房kimorを掛ける人もいた。吉iで交流会。高橋哲井倉庫のメモリアルド史オーナーのあいさつツグでは慶大・弘大のは弘前のリング作りの学生たちが犬の背に登歴史と人物伝も織り込

### 藤田久美子②

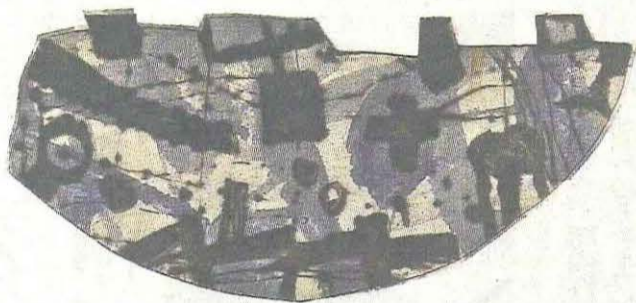
## 弘前シードル物語



係する施設を見学した。西谷さんの「弘前シードル物語」を聞きながら。

ぎわい。途中、慶大工学部研究チームと合費用がかかりすぎて経流。國枝孝弘氏は、E営難に。苦肉の策として「テレビでフランて生み出したのがヨース語」の講師でおなじドル造りであった。

さて、バスは最初の「よかれと思った自家見学地、弘前駅隣の旧電力が経営の足を引く吉井酒造へ。ガイドは張り、しかしそのおか「たびすけ」の西谷重げで弘前で最初のシードル佐さん。皆さん、こドルが誕生したわけでは現在、営業活動はす。しかも発電所は今していません。弘前のも電気を作り続けてい



カット・橋本尚志(青森市)

まれ、濃く熱いものがあつた。料理もシードルもおいしく、薪ストーブの炎が温かかった。薪ストーブは下段がオーブンになっていて、ここで焼く「焼きリング」は絶妙の味である。体験ができるのでぜひどうぞ。

弘前のシードル文化には、たさんの人々の汗と涙のドラマがあることを深く学んだ一日だった。

(「潮音」同人、弘前市在住)

※次回は1月15日掲載。俳人協会会員の石崎志多さんが執筆します

## 文化

この画像は当該ページに限って陸奥新報社が利用を許諾したものです。